

共にしあわせ産みだす党 日本共産党  
**市議団ニュース**

第2058号 2023年05月14日

日本共産党 根室市議団

根室市宝林町4-203 TEL0153-23-6023



**子孫のために、長く平和が続くことを願って**  
『憲法記念日のつどい』を開催 ねむろ「九条の会」

5月4日、ねむろ「九条の会」は憲法記念日のつどいを開催し、37名が参加しました。中沢啓治原作のアニメ映画「クロがいた夏」を視聴し、戦争と原爆の悲惨さ、そして平和の大切さを学びました。

ねむろ「九条の会」は毎年、憲法記念日のつどいを開催してきましたが、コロナ禍で長く屋内での行事が出来ず、憲法記念日には街頭でアピール行動を行ってきました。今回は4年ぶりの集会となり37名の方が参加しました。

参加者は「クロがいた夏」というアニメ映画を視聴しました。これは「はだしのゲン」作者の中沢啓治氏が、戦時中に子猫を飼っていた自身の体験談を綴った絵本を原作にした作品です。

開会あいさつで、ねむろ「九条の会」世話人の神忠志さんは、井上ひさし氏の「私は平和を守れ」という言葉の代わり、日常を守れと言っている」という言葉を紹介して、「この『クロがいた夏』で描かれている日常、普段の生活がどうなったのか。作品を通して、みなさんと一緒に憲法や平和、さらには原爆の問題について、私たちがゆっくりと考えてもらえる機会になればと思う」と述べました。

また閉会あいさつで、ねむろ「九条の会」代表世話人の細川憲了さんは、「戦時中の非人間性、戦争犯罪の最たる原子爆弾の投下というアメリカの行為がこれまで咎められることが無く来たことが、今日の憲法に対する様々な出来毎にも繋がっている。

原爆投下の20日ほど前に根室の空襲があった。道内でも被害が大きく、町の8割が壊滅し、4000人を超える犠牲者を出した。広島や長崎の原爆と同じ無差別な攻撃だ。戦争中の生活はもつと極端で、食糧難は深刻な事態だった。軍国主義の中で「お前の人生は25歳までだと思え」と、教育現場では先生が競って子どもたちを戦地に送るような時代だ。そうした時代のことを皆さんにもつと学んでほしい。

憲法は行政機関や政治家が暴走をしないようにする檻だ。79年続いた平和が、長く子孫のために続いていくことを願っている」と話しました。

**なくそう核兵器 9条改憲NO!**  
**ストップ戦争準備・増税!**  
「2023年原水爆禁止国民平和大行進」  
根室コース出発式が行われました



5月7日、原水爆禁止日本協議会の「2023年原水爆禁止国民平和大行進」根室コース出発式が納沙布岬で行われ、労働組合や市民団体など20名が参加しました。そのあと市街地に移動して核廃絶のアピール行進を行いました。

根労連の中山議長は「日本政府は憲法を活かした平和外交を進め、被爆国として核兵器禁止条約に率先して参加し、核兵器の無い世界の実現へイニシアティブを発揮すべき」と述べました。通し平和行進者の小川基弘さんが根室コースに参加するのは今年で4回目になります。「原爆により多くの方が亡くなり、今もなお苦しんでいる。この悪魔の兵器を何としても無くさなければならぬ。元気いっぱいアピールしていきたい」との抱負を語りました。

**安心して平和に暮らせる**  
**社会の実現を目指して**  
「第94回 メーデー根室市集会」  
4年ぶりにリアル開催されました



5月1日、コロナ禍により数年間オンライン開催としてきたメーデー根室市集会が4年ぶりに、ときわ台公園で開催されました。集会のあと約60名の参加者は夕暮れの市街地をデモ行進しました。

主催者あいさつで根労連の中山議長は今年知床財団に新しく労働組合が結成されたことを報告して、「いま根労連の各単組とも組織化や活動の継続に苦慮しているが、新しく立ち上がった仲間にも勇気と元気をもらいながら、ともに乗り越えていきたいと思います」と呼びかけました。

**根室国後間海底電信線陸揚施設(通称:陸揚庫)プロモーションビデオ ~もの言わぬ語り部~**



根室市公式チャンネル  
(YouTube動画)  
この動画のQRコード

根室市が昨年度中に制作した約34分の動画で、今年4月22日のシンポジウムで初公開されたそうです。  
2022年度の根室市予算は陸揚庫の現況調査とプロモーション動画制作、啓発パネル作成の経費で1992.5万円が計上されています。  
現存する陸揚庫の保存と活用をどのようにするのか、根室市では現在、専門家による提言を踏まえ、検討が進められています。  
本作品はこれまでの調査結果を取りまとめた内容ですが、単に建物の解説というだけでなく、国後島・択捉島をつなぐ海底電信ケーブルによって日常的にどのような通信(電報)がされていたのか、またソ連侵攻当時の切迫した状況を伝える各村長の電報の内容等も、資料に基づき詳しく説明されています。  
動画内で陸揚庫保存会の久保浩昭会長は「これまでのストーリーを建物と電線にのせ、若い人に伝えることが重要」と話していました。陸揚庫という建物と当時の通信記録等をつなげた視点により、紛れもなくその地に暮らしていた人々の姿を、見る人に強く思い起こさせる作品になっていると思えました。ぜひ皆さんも一度ご視聴いただきたいと思えます。